

鹿ノ台川柳教室 十二月度句会

十二月十七日(月) 西集会所

席題「時」

橋 正清選

時過ぎて解決するは嘘ばかり
 時計だけ知ってくれてるオレの愛
 味深く通をうならす時知らず
 一年を三月のように感じる日
 古希過ぎて月日が私置いていく
 現実を時に浮べて夢路行く
 毎日の誤差を溜め込む古時計
 解放が平和の時を知らしめる
 懐しい写真を見てはほおゆるむ
 近頃は宇宙の人と間違われ
 小さいと子は知らぬ間に親を越す
 遅刻の言い訳電波時計は横を向く
 秀3DK時たま合わす顔がある
 秀いい皺と時を味方にした笑顔
 軸奥寄ればタイムマシンに乗る勇氣

幸男
 よし尚
 登美
 英二
 哲子
 宏樹
 良一
 勝利
 えいじ
 充
 春代
 義雄
 乃り子
 広子
 正清

宿題「味」(連記)

山神春代選

うす味になれて安定血糖値
 破綻するカジノゲームに味を占め
 出向しスイもアマイもいやと知る
 自分史に味を加える恋の章
 まずいととは誰も言わないチャンコ鍋
 おふくろの味はスナック縄のれん
 好き嫌い直してくれた妻の味
 ひと知れず苦労しただけ蜜の味
 持ち味が張力を超えにじみ出る
 あと味を肴にワインもういっぱい
 年金の味かみしめてもやし井
 欠点を長所に生かし味を出す
 妻が描く味のある絵が天下取る
 ユーモアがピリリと効いて良い祝辞
 秀この体味道楽のなれの果て
 軸下味を工夫皆んなのすすむ箸

登美
 幸男
 よし尚
 良一
 えいじ
 英二
 義雄
 哲子
 正清
 乃り子
 広子
 勝利
 宏樹
 アキラ
 充
 春代

宿題 自由吟(共選)

奥村義雄選

クラス会また出席者ひとり減る
 黒枠の囲みのハガキ師走知る
 言葉尻とらえて責める評論家

英二
 乃り子
 勝利

揉め事の種は捲かない拾わない

良一

お歳暮を選ぶ元気もなくなつて

充

カリスマも欲に駆られて墓穴掘る

勝利

欠席の返信いつも諸事情で

乃り子

手鏡も持て余してるメイキャップ

広子

カビ臭いヘッセの書からイチョウの黄

広子

花の名は知らぬが君に似た花だ

良一

割烹着の母思い出す年の暮れ

英二

秀洗濯機家族の日々を見つめてる

アキラ

軸買つて積み積んでは読まぬ繰返し

義雄

宿題 自由吟(共選)

笹倉良一選

削除する迷惑メール妻からの
 夕映えになごり紅葉も急ぎ足
 欠席の返信いつも諸事情で
 手鏡も持て余してるメイキャップ
 自分史をすらすら書ける楽道家
 カリスマも欲に駆られて墓穴掘る
 トランプの気嫌よさそう株買おう
 どん底と地獄の底と二重底
 大樹に粘膜をそばだてる鼓動
 枯木立少しの悔いと満足と
 言葉尻とらえて責める評論家
 秀カビ臭いヘッセの書からイチョウの黄
 軸花の名は知らぬが君に似た花だ

幸男
 哲子
 乃り子
 広子
 義雄
 勝利
 よし尚
 幸男
 正清
 アキラ
 勝利
 広子
 良一

宿題「弱い」(互選)

②やさしいが情に脆くて騙される
 弱虫が切羽詰って角を出す
 定年後弱い私に誰がした
 ③父は娘に母は息子に甘くなる
 下戸はダメ飲み放題の忘年会
 私の弱さを遊ぶハイニツカ
 ④ふと見せる弱さも魅力いい男
 ペットきてご主人さまの位置微妙
 来年もトラはできないコイ料理
 憲法は弱者と共に御安泰
 弱者から強さ教わる深い愛
 抗癌剤打ちつつ生きて弱気断つ
 ⑤つつきたい弱味にぎゅっと目をつぶる
 すぐ愚痴を吐く私という弱さ
 強さより弱さ教えてくれた父

勝利
 勝利
 充
 義雄
 幸男
 広子
 英二
 哲子
 充
 正清
 登美
 宏樹
 広子
 良一
 英二

負けるが勝ちさ弱い男の独り言 義雄
⑥弱いからゴメンの言えぬ意地っ張り アキラ
この先はどこへ向かうか弱い国 えいじ
弱くみせる強い女の隠れ技 乃り子
⑫弱点を互いに知ってこそその友 アキラ

鹿ノ台川柳教室会員の新聞投句 掲載された句

(十一月十九日〜十二月十七日各紙掲載分)

朝日新聞 田中新一選

十一月二十二日 題「予約」 よう子
バスツアードタキャン迫る脚と腰
十一月二十九日 題「別れ」 アキラ
お別れが辛くてペットもう飼えぬ
十二月六日 題「メール」 義雄
メールでは冗談交わす親父です

毎日新聞 山田順啓選

十一月二十二日 題「土産」 よう子
待つ人はいないが旅の土産買う
里帰り土産話に愚痴もあり 勝利
あの土産貰ったばかりくされ縁 乃り子
十一月二十九日 題「化粧」 正清
アイシヤドウかける心の透かし彫
飾らぬも美人は美人薄化粧 幸男
十二月六日 題「テスト」 アキラ
親の愛確かめたくて駄駄こねる

読売新聞 阪本高士選

十一月二十五日 題「望む」 正清
極刑を待ち望みつつ生きている
何事も思い通りの恐ろしさ 幸男
十二月二日 題「ショック」 正清
危なさを感じないまま骨になる
十二月九日 題「贅沢」 正清
漆黒の星のシャワーを浴びている
十二月十六日 題「 正清
しゃれこうべ人と獣をわきまえる
血が上る古くて固い頭です 幸男

奈良新聞 居谷真理子選

十一月二十一日 題「飽きる」 アキラ
素直さが少し欠けてて飽きぬ友
生きるのに飽きてゲームにはまってる 正清
十一月二十八日 題「気持ち」 よう子
今日もまた無表情にてたそがれる
青かった自分の気持ちも解らずに 英二
タラレバの気持ちの整理つかぬ日々 幸男
十二月五日 題「必ず」 幸男
必ずをもうけ話に付け加え
あの人のドタキャン誰も驚かず 英二
必ずの話半分聞いておく アキラ
十二月十二日 題「噂」 正清
女子会は被告のいない裁判所 英二
増税はしないだろうという噂 アキラ
ゴシップがおろちに乗ってやってくる 正清

奈良新聞 米田恭昌選

十二月十三日 自由吟 よう子
揺れ動く心に打てぬ句読点
長すぎるトンネル抜けてホッとす 幸男
寄り道が好きで人生二倍生き アキラ
帰りしな会釈をかわす夜店筋 正清

*橋正清、林勝利、前田幸男、

三氏は各紙の短歌俳句でも活躍

次回 一月二十一日、十二時開場、西集会所

*句会終了後十三時より新年会(会費千三百円)

宿題は「模様」、「よもや」、「自由吟」

*「模様」 選者 充 *一枚の句箋に二句連記

*「よもや」 選者 勝利 *一枚一句、二句

*「自由吟」 選者 広子 *一枚一句、二句

出句、十二月二十分

自治連合会公認クラブとして活動

「ご自分の生活を、思うことを、五七五に

句会のご見学、ご入会大歓迎、会費一ヶ月百円

問合せ

原 広子 (79・0061)

野々村詮 (090・6961・1292)